

伯夷論

山田 方谷

1 鳴あ 呼あ 天てん 下か 之の 至しくわんニシテ 寛 而 有る 容かたち 者もの 孰たレカ 有らん
 2 過スグル 伯はく 夷いニ 者もの 上 哉や。 徒いたづらニ 視みテ 其その 迹あとヲ 而 不ず 察さつセ 其その
 3 心ヲ 宜むベナルかな 乎 世よ 之の 以もつテ 狭けふ 隘あいヲ 病やムコト 之これヲ 也。 伯はく 夷い
 4 生ウマレテ 衰す 世せい 之の 際さいニ 而 遭あフ 人じん 倫りん 之の 変へんニ 讓ゆづリテ 千せん
 5 乗じよう 之の 国くに 而 居をリ 北ほく 海かい 之の 濱ほとりニ 辞じシテ 萬ばん 鍾しよう 之の
 6 粟ぞく 而 饑うニ 首しゆ 陽やう 之の 下もとニ 孤こ 行かう 特とく 立りつシ 其その 迹あと
 7 類るゐス 狷けん 介かいナルものノ 者ものノ 流たぐい 之の 所ところニ 為なス。 是これ 後のちノ 人ひとノ 所ゆゑんニシテ 以
 8 有るニ 狭けふ 隘あい 之の 論ろん 而 或あるイハもつテ 以介かい 子し 推す 嚴げん 子し
 9 陵りようヲ 視みル 之これヲ 矣。 特たダ 不ざルノミシラ 下 伯はく 夷い 之の 心こころ 倚より 義ぎニ
 10 順したがヒめいニ 命いニ 為なシ 於 可ベキヲ 為なス、 不ざルヲ 為なサ 於 不ざルハ 可ベカラ 為なス。 讓ゆずリ
 11 千せん 乗じよう 之の 國くに 以テ 全まつタクス 父ふ 子し 之の 恩おんヲ 非あらザル 為なスニ 高たかキヲ
 12 也。 辞じシテ 萬ばん 鍾しよう 之の 粟ぞく 以もつテ 立たツ 君くん 臣しん 之の 義ぎヲ 非あらザル
 13 為レ 異なり 也。 泰たい 然ぜんトシテ 而 居をリ 悠ゆう 然ぜんトシテ 而 行おこなフ 未いまダ 始メヨリ
 14 有るニ 意い 於 其その 間かんニ 也。 彼かノ 子し 推す 子し 陵りよう 之の 徒と、
 15 出いデテ 於 悻かう 悻かう 之の 怒どニ 而 為なス 詭き 激げき 之の 行こうヲ 者ものトハ
 16 猶なホ 黒こく 白びやく 之の 相あひ 反はんスルガ 也。 烏いブクンソ 可ケンおなじクシテ 日ひヲ 而 語かタル
 17 哉や。 夫それ 今いま 之の 人ひと、 一いち 人じん 譏そしラバこれヲ 則すなはチ 愠いかり 矣、 一いち
 18 人じん 笑わらハバこれヲ 則すなはチ 耻はツ 矣。 不ずシテ 進すすミテ 而 與とレ 之これ 争あらそハすなはチ
 19 退しりぞキテ 而 自みづカラ 怨うらム 矣。 是これ 即すなはチ 狭けふ 隘あい 之の 病やまひ 也。 彼かノ

